



# 会津DX日新館について (1/3)

## ■ 目的

会津地域課題解決連携推進会議（座長：会津地方振興局長）のプロジェクトの実施にあたり、「人生100年時代会津地域自治体広域連携指針」で掲げる18指針とSDGsの観点に沿って、会津大学、福島大学等の県内高等教育機関と連携して、会津地域の自治体が抱える課題の解決に向けた解決策を検討するとともに、事業化していくことを目的とする。

## 背景

- 急激に進む人口減少や高齢化、過疎化等様々な地域課題を抱える会津地域。
- 人生100年時代を、個人の人権が保障され、健康で文化的な満足度の高い生活をこの会津の地で実現し、地域経済が持続的に発展できるよう「**人生100年時代会津地域自治体広域連携指針**」を策定（令和4年1月21日）。
- 業務効率化によって生み出した時間や人員により、住民サービスの更なる充実が図られなければならない。
- **自治の課題は住民の中にあり、解決策も住民の中にある。**ゆえに、住民の中に入っていったって、住民ニーズ、地域課題を正確に把握し、その解決に向けて住民とともに考え、ともに創ることが重要である。

## 事業内容

- 1 各大学の教員とゼミ生と連携して、地域の抱える課題についてフィールドワーク等の調査研究を実施し、大学より政策提言をうける。  
※ **地域課題を福島大学が中心となって掘り起こし、ICT技術等を活用した解決策を会津大学と連携して行う。**
- 2 **調査研究の成果をシンポジウムを開催し、**地域住民はもとより、県内外に発信。また、毎年度、成果報告書を作成し公表する。
- 3 **優秀な政策提言については、表彰するとともに、次年度以降の県及び市町村の事業として予算化する。**なお、事業の実施において、アドバイザーとして政策提言の教員や学生の協力を依頼する。



# 会津DX日新館について (2/3)

## スケジュール (予定)

- 7月1日「会津DX日新館」開館
- 7月上旬～1月上旬  
調査研究適宜WG、意見交換会等開催
- 1月中旬～1月下旬  
**第1回シンポジウム (成果報告会・表彰式)**
- 1月上旬～1月下旬：成果報告書作成
- 2月上旬～3月上旬：成果報告書公表
- 2月中旬～3月下旬：次年度調査研究調整

## 事業体制

会津地域課題解決連携推進会議の中に  
「会津DX日新館」を設置する。

- ・ **館長：会津地方振興局長**
- ・ 会津DX日新館調査研究調整会議  
館長、副市町村長、各大学担当教員等

※ 最終意思決定は、「会津地域課題解決連携推進会議」で行う。

## 期待される効果

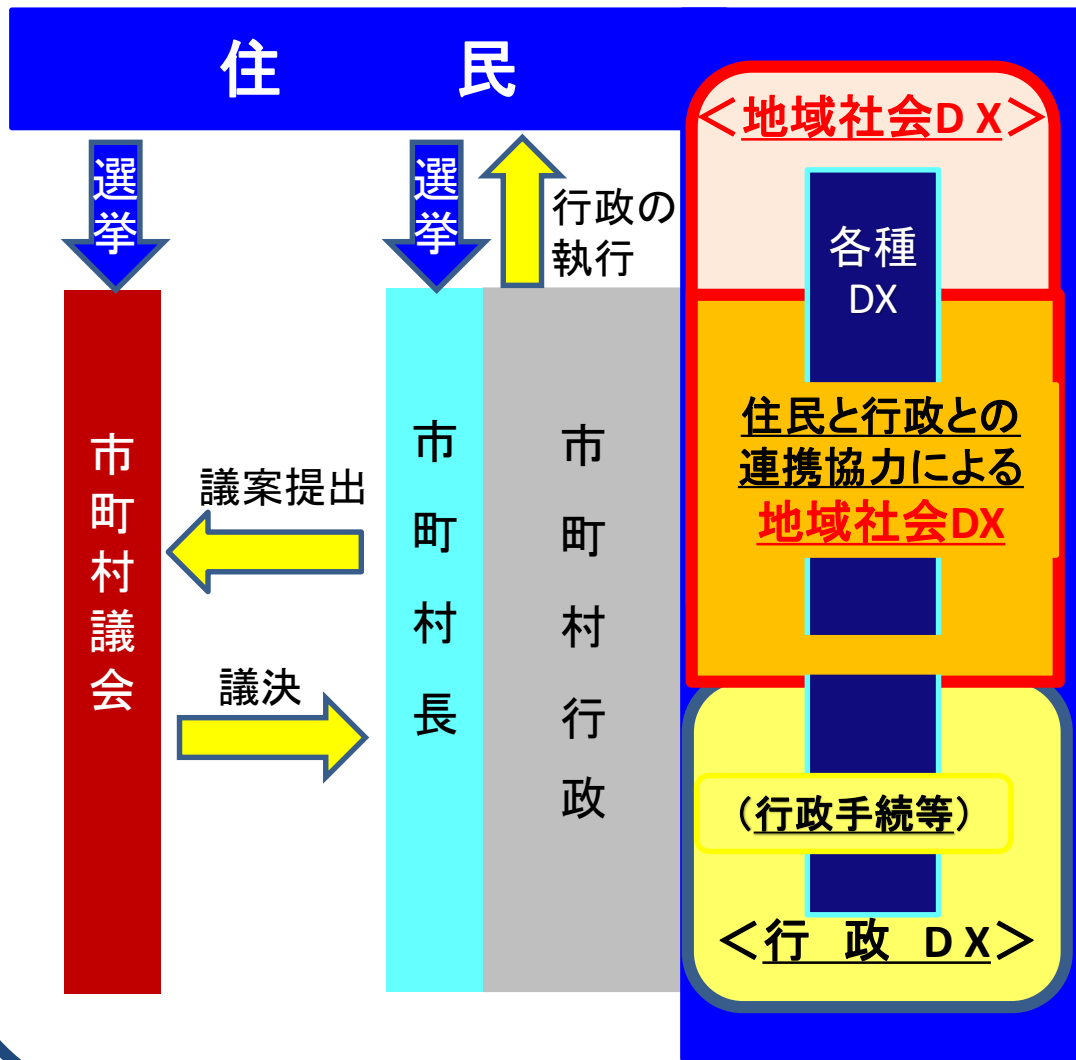
- 1 課題の掘り起こしを「福島大学」「会津大学短期大学部」、解決を「会津大学」、実装を「地元ICT企業」という役割分担に加え、各大学の研究テーマにも位置づけ、それを「会津地域課題解決連携推進会議」で進行管理する**持続可能な仕組みの構築**。
- 2 地元大学、若い学生が継続して地域に入ることによって、地域住民との交流から新たな活力が生まれ、**新しい魅力発見**にもつながる。また、この過程に市町村職員がかかわることによって、職員の政策形成能力の向上も期待。
- 3 調査研究成果を教員から学会や論文等で発表されることは、**地域に対する学術的な価値をも見いだす**ことにつながる。
- 4 学生の卒業研究やゼミ活動によって、積極的な若者の地域参入を期待。SNS投稿等により**地域の魅力発信や交流人口・関係人口の増加にも寄与**することを期待。
- 5 学生の活動を通じ、地元自治体や地域への就職等、**優秀な地域の人材確保**にもつながることが期待できる。



# 会津DX日新館について (3/3)

自治体DX事業全体のイメージ

## 市町村(住民+地域社会)



会津地域課題解決連携推進会議

人生百年時代 会津地域自治体広域連携指針

スマートシティ  
産学連携

**会津DX日新館**  
産学官連携

草の根DX  
標準化・共通化への取組  
(R3:スマートプロジェクト)



# 会津DX日新館 令和4年度 調査研究内容一覧

|   | テーマ    | 地域課題                          | 参加大学   | 参加自治体等                 | 成果の横展開を図る自治体          |
|---|--------|-------------------------------|--|------------------------|-----------------------|
| 1 | 地域定着   | 若年層の地域定着                      | 福島大学、会津大学、会津大学短期大学部                                  | 会津地域13市町村              |                       |
| 2 | 広報     | 各自治体の広報課題の解決                  | 会津大学短期大学部<br>産業情報科デザイン情報コース<br>教授 高橋延昌               | 会津地域13市町村              |                       |
| 3 | 鳥獣被害対策 | 害鳥の追い払いのための手続き期間短縮            | 会津大学産学イノベーションセンター<br>教授 畠 圭佑                         | 会津若松市                  | 会津若松市以外の<br>会津地域12市町村 |
| 4 | 鳥獣被害対策 | ツキノワグマ等による被害防止、安心して暮らすための環境整備 | 会津大学コンピュータ理工学部<br>教授 齋藤寛<br>上級准教授 富岡洋一<br>上級准教授 小平行秀 | 会津若松市<br>喜多方市<br>会津美里町 |                       |
| 5 | ICT活用  | IP告知端末の活用方法の検討                | 会津大学産学イノベーションセンター<br>教授 畠 圭佑                         | 三島町                    |                       |
| 6 | 観光     | JR只見線を活用した観光施策                | 会津大学短期大学部 産学情報科<br>教授 高橋延昌                           | 金山町、柳津町、三島町            |                       |
| 7 | 移住・定住  | 移住・定住及び空家対策                   | 福島大学行政政策学類 教授 塩谷弘康                                   | 昭和村                    | 昭和村以外の<br>会津地域12市町村   |
| 8 | 健康長寿   | 青壮年層の健康意識醸成                   | 会津大学短期大学部 幼児教育科<br>教授 渡部琢也                           | 昭和村                    | 昭和村以外の<br>会津地域12市町村   |
| 9 | 医療・福祉  | 奥会津地域の医療・福祉の充実                | 福島大学行政政策学類 教授 鈴木典夫<br>(協力) 奥会津在宅医療センター<br>医師 押部郁郎    | 柳津町、三島町<br>金山町、昭和村     |                       |



# 会津DX日新館 令和4年度 調査研究内容(Ⅰ)

- テーマ：地域定着
- 地域課題：若年層の地域定着
- 参加大学：福島大学、会津大学、会津大学短期大学部
- 参加自治体：会津地域13市町村

## 趣 旨

- 進学や就職に伴い転出する若者が多い中、今後、**若者の就職先の地域として会津を選択**してもうことが、地域の発展及び高齢化や人口減少の影響を軽減するためにも必要。
- **多くの学生が関わる本事業の特性を生かし**、参加学生の協力を得ながら**学生に寄り添った質問項目及び内容を作成**し、各大学で進路選択の時期にある学生に対して、何があれば(なければ)会津地域での就職を検討するようになるのか、**アンケートによる調査研究**を行う。

## 事業内容

- 自治体が作成した質問項目に、学生目線で意見を加え学生が答えやすくすることで、学生の状況がよりリアルに把握できるよう、**自治体と学生が共同で質問項目及び内容を作成**する。
- **アンケートは、オンライン方式**を採用する。  
その手法等については会津大学による助言を受ける。
- アンケート結果を各自治体の施策に生かす。



# 会津DX日新館 令和4年度 調査研究内容(Ⅱ)

- テーマ：広報
- 地域課題：各自治体の広報課題の解決
- 参加大学：会津大学短期大学部産業情報科デザイン情報コース 教授 高橋延昌
- 参加自治体：会津地域13市町村

## 趣旨

- スマートフォン、SNSの普及により、情報の伝達が著しく変化している。この変化をとらえ、従来の主要な情報発信方法である**広報誌の在り方や、新しいデジタルコンテンツの導入等、自治体の情報発信においても対応が求められている。**
- **自治体の広報課題について調査研究し、今後の広報施策に反映できるようにする。**

## 事業内容

各自治体の個別の広報課題の把握と成功事例等について、調査研究を行う。

- 令和4年度：会津若松市
  - ・ 広報誌の現状を調査分析。
  - ・ 町内会未加入世帯への配布や仕分け作業負担軽減等への対応として、広報誌掲載情報の整理による軽量化を図る等の調査研究も行う。
  - ・ SNSの活用に関しより効果的な即時性のある情報発信方法についても調査研究を行う。
- 令和5年度以降：三島町から順に会津地域13市町村に拡大



# 会津DX日新館 令和4年度 調査研究内容(Ⅲ)

- **テーマ：鳥獣被害対策**
- **地域課題：害鳥の追い払いのための手続き期間短縮**
- **参加大学：会津大学産学イノベーションセンター 教授 畠 圭佑**
- **参加自治体：会津若松市**
- **成果の横展開を図る自治体：会津若松市以外の会津地域12市町村**

## 趣 旨

- 会津若松市の市街地では鳥害(カラス、ムクドリ等)対策として追い払いを行っているが、住民の鳥害情報提供から、**各手続を経過して実際の追い払いを行うまでに時間がかかり、実効性に欠ける結果になることがある。**
- 実効性を確保に向け、**手続期間短縮のための調査研究**が必要。

## 事業内容

- 会津大学と会津若松市が連携して**手続の見直し**を行い、ICTの活用等も含めて**手続期間短縮の方法を検討**する。
- 調査研究結果を13市町村で共有し、手続の短縮が求められる場面で活用できるようにする。



# 会津DX日新館 令和4年度 調査研究内容(Ⅳ)

- **テーマ：鳥獣被害対策**
- **地域課題：ツキノワグマ等による被害防止、安心して暮らすための環境整備**
- **参加大学：会津大学コンピュータ理工学部**  
教授 齋藤寛、上級准教授 富岡洋一、上級准教授 小平行秀
- **参加自治体：会津若松市、喜多方市、会津美里町**

## 趣 旨

- **鳥獣対策は会津地域においても喫緊の課題**である。急激な人口減少、少子高齢化の進展、耕作放棄地の増加、狩猟者の減少などを背景に、**効果的な鳥獣対策が求められている**。
- 捕獲用わなの見回り作業削減などの**労務負担を減らしつつも、ツキノワグマ等による被害を未然に防ぎ、住民や観光客が安心して暮らし訪れる方法の調査研究が必要**。

## 事業内容

会津大学が研究を行っている**機械学習に基づいた野生動物検出システム**を搭載した警報装置を設置し、出没の検出及び光や音による追い払いを実施。同システムの実証事業を行う。

### ○ これまでの取組と課題

ツキノワグマ検出件数8件あり、うち5件で音や光による追い払いが確認できた。今後の課題としてはイノシシの検出に向けた精度の向上、装置のコスト削減が挙げられる。

### ○ 令和4年度以降の取組

**検出精度改善**に向け学習モデルを再構築する。**将来的な実用化に向けて装置の小型化とコスト削減、電源効率の向上、保守管理の容易化を目指す**。





## ■ テーマ：ツキノワグマ等を対象とした野生動物検出システム実証事業



検出システムを搭載した警報装置



警報装置によるクマ検出の様子



# 会津DX日新館 令和4年度 調査研究内容(V)

- テーマ：ICT活用
- 地域課題：IP告知端末の活用方法の検討
- 参加大学：会津大学産学イノベーションセンター 教授 畠圭佑
- 参加自治体：三島町

## 趣 旨

- 三島町では平成23年度にIP告知電話を全戸に導入し、町の情報発信等に活用してきたが、老朽化による設備更新時期を迎えている。
- 現在、スマートフォンの普及やSNS等の発達が進む中で、現在の設備を活用する方法を整理し、設備更新の適否を判断するとともに、活用又は代替策について調査研究する。

## 事業内容

- 実際に三島町の設備を確認するほか、制度等も含めて現状を確認する。
- 設備更新により提供可能な町民サービス、設備を廃止しても他の方法で提供可能な町民サービスの両方を整理し、比較検討する。



- テーマ：観光
- 地域課題：JR只見線を活用した観光施策
- 参加大学：会津大学短期大学部産学情報科 教授 高橋延昌
- 参加自治体：金山町、柳津町、三島町

## 趣 旨

- 新潟・福島豪雨災害による被災からJR只見線が全線開通する。被災前は生活路線の性格が強かったが、再開にあたっては**観光路線として地域に経済効果をもたらす**ことが期待されている。
- JR只見線全線開通後の地域活性化を図るため、観光施策等、只見線利活用について調査研究を行う必要がある。

## 事業内容

- JR只見線沿線自治体の**魅力を学生の視点から再発見し、駅を起点とした地域の観光プラン等**、只見線利活用に関する施策及びその効果的な周知方法の調査研究。
- 令和4年度：金山町
- 令和5年度以降：柳津町、三島町



- テーマ：移住・定住
- 地域課題：移住・定住及び空家対策
- 参加大学：福島大学行政政策学類 教授 塩谷弘康
- 参加自治体：昭和村
- 成果の横展開を図る自治体：昭和村以外の会津地域12市町村

## 趣 旨

- 昭和村では、**空家バンクへの登録が進まず**利用されないまま雪で倒壊する空家がある一方で、カスミンウ新規就農者や織姫体験生の**住居確保が課題**となっている。
- 如何に移住を促し受け入れていくか、移住者と地元住民の活発な交流により**相互理解を促しながら定住を図っていくこと**など、移住・定住促進につながる施策の検討を要する。

## 事業内容

- **空家数及びその状態、空家バンクに登録が進まない理由**等について調査を行い、その対策を検討する。
- **移住希望者への効果的な情報発信や移住者を受け入れる体制**について政策提案するとともに、**移住者と地元住民の相互理解を深め、移住・定住を促進する**一助となる方法・方策についても政策提案する。検討にあたっては、デジタルコミュニティの活用<sup>の適否</sup>等も考える。



- テーマ：健康長寿
- 地域課題：青壮年層の健康意識醸成
- 参加大学：会津大学短期大学部幼児教育科 教授 渡部琢也
- 参加自治体：昭和村
- 成果の横展開を図る自治体：昭和村以外の会津地域12市町村

## 趣 旨

- 昭和村では、**特定健康診断の受診率が50%を下回る**など、健康への意識づけが課題。
- 特に、**人生100年時代に向け将来的な村民の健康寿命の増進**を図り、副次的に村財政における医療費・介護保険料の軽減に資するよう、**青壮年層に対する健康意識醸成が必要**。

## 事業内容

- 健康意識の醸成を図るためには、比較的若い世代から行う必要がある。そこで、**小学生の親世代を対象に現状把握と意識調査等**を行う。
- また、村では、オンラインアプリを活用したポイント制の健康増進ツールの導入なども検討しているが、**更なる健康意識の醸成につながる施策**について提案を行う。



# 会津DX日新館 令和4年度 調査研究内容(Ⅹ)

- テーマ：医療・福祉
- 地域課題：奥会津地域の医療・福祉の充実
- 参加大学：福島大学行政政策学類 教授 鈴木典夫
- 参加自治体：柳津町、三島町、金山町、昭和村
- 協力関係機関：奥会津在宅医療センター 医師 押部郁郎

## 趣 旨

- 奥会津4町村(柳津町、三島町、金山町、昭和村)は、県内の高齢化率上位を占め、急激な人口減少、過疎化の問題も抱える課題先進地域。課題を抱えつつも、地域住民が健康で長生きし、人生100年時代を最期まで地域で誇りをもって豊かに暮らすことができれば、住民にとって満足度・幸福度の高い地域といえる。
- そのためには、現状や課題を正確に把握すること、医療と福祉を最適な形で充実させる方策について調査研究することが必要。

## 事業内容

- 令和4年度  
奥会津4町村、福島大学及び奥会津在宅医療センターが連携し地域の現状と課題を整理し、次年度以降の調査研究計画を立てる。
- 令和5年度以降  
具体的な施策や企画の提案に基づき、事業化を目指す。